

研究課題

生徒一人一人が自己の将来をデザイン するためのICT活用

副題

～将来設計能力を高めるための教科指導における積極的な
ICT活用～

学校名

石川県立金沢錦丘中学校

所在地

〒921-8151
石川県金沢市窪6丁目218番地

ホームページ
アドレス

<http://www.ishikawa-c.ed.jp/~nisikj/>

1. はじめに

貴財団2年目の一般研究助成を受けさせていただいた本校は、平成16年4月に開校した石川県唯一の併設型中高一貫教育校である。開校以来、学校独自の教科「コミュニケーション(国語・英語・情報)」を設け、国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある人間を育成するとともに、高いコミュニケーション能力を身に付けさせ、将来の生きる力を備えた生徒の育成をめざしてきた。

昨年度以来、本校では貴財団の実践教育助成を受けさせていただき、学校でのさまざまな取り組みを「キャリア教育」の視点から整理しなおしてきた。目標は3年生の最後に「生徒自身が夢を語ることを通して自らの背中を押し、学習意欲を持ち進学することで高校とのスムーズな接続を図る」ことである。3年生は1年間をかけて自分の将来に向けた様々な調べ活動を行い、卒業前に生徒自身の将来をテーマにコンピュータ+プロジェクト環境でプレゼンテーションする「キャリア論文発表会」を実施した。

今年度は昨年の取り組みを継承しつつ、これまでの特別活動的な時間の取り組みだけでなく、教科指導の側面からも、このキャリア論文発表会に向けた能力向上に取り組んでいこうとの思いから研究に取り組んだ。

2. 研究の目的

中高一貫の学校では、どうしても中学校3年時の「中だるみ」が課題となり、本校でも開校以来、この課題に対してさまざまな取り組みを実践してきた。本研究の取り組みでは、この中学校から高校への移行期に、各自が「将来をデザイン」することで、生徒の中に6年間という「学びの連続性」の意識化を図ることを目的としている。その上で、中高一貫教育校で学べることに誇りを持ち、自らの将来を見据え、進路を主体的に選択できる意欲・態度を育てることを意図し、生徒が自分自身の背中を押し、自己実現に向けて推進力が得られるようになることを目的としている。

さらに、生徒自身がICT機器を活用しながらプレゼンテーションすることで思考力、判断力、表現力の育成のみならず、学び方、問題解決能力の育成につなげ、確かな学力を育むことを期待している。

一方、われわれ教職員自身や学校としても、キャリア教育そのものを学校の全教育活動の根幹に位置づけ、将来の目標に向かって生徒自身が進むための「エネルギー供給源」としていこうと、教科の学習や諸行事を改めて見直し、再編する1年間とした。キャリア教育をエンジンとして学力「知」の車輪や、人間性「徳」「体」の車輪をいかにバランス良く回転させるようにしていくか、そのための刺激をどう与えるかを全職員で考えることになった。

3. 研究の方法

学校は生徒の「学力保証」と「成長保証」を実現する場所であり、「学力保証」の観点からは、「キャリア教育の視点」から各教科において教科の価値や教科特有の概念・考え方を伝える授業実践を心がけることとした。これらを伝えることが学習意欲の向上だけでなく、それが「成長保証」の側面である人間としての度量を広め、奥の深い人間性を築かせ、自己の生き方を考えることにもつながると考えた。

また、本校では「言語活用力育成」を中心テーマに学校研究を行い、研究授業実践や授業公開を行っているが、この研究とのリンクをさらに深め、各教科の授業実践の中で、より生徒のプレゼン能力を高める取り組みを実施していこうと考えた。そして、こうした取り組みを通して、最後のキャリア論文発表会を質の高いものにしていきたいと考えた。

4. 研究や実践の内容

(1)教科指導の中での取り組み

4月の校内研修会においてICT活用を意識しながら生徒の言語活用力向上を意図した授業実践を行うことを職員で共通理解した。全職員が少なくとも年に1回以上は生徒にICTを活用したプレゼンを実施させる授業を展開することで、生徒のプレゼンテーション能力向上につなげ、高度な表現力の育成をめざそうというものである。さらに道徳・特別活動の授業においてもキャリア教育の視点で、その時々での取り組みとリンクしたカリキュラム編成を行っているが、そうした中でもICTの活用を積極的に行い、教員側もより活用できる環境を整えていくことが確認された。以下、1年間の実践を通して報告されたいくつかの取り組みを紹介する。

◎実践例①－1年国語科

授業の導入で前時の板書をプロジェクタでスクリーンに映し復習した。説明的文章の構成を捉える学習において、全体を把握することに役立ち、生徒からもスムーズに発言がなされた。

◎実践例②－2年国語科

筆者の文章を、視点を変えてリライトする授業で、生徒が書いた文章を実物投影機と電子情報ボードを利用して映し出した。自分の書いた文章と映し出された文章をすぐに比較でき、文章の意図や意見を述べるのもスムーズであった。

◎実践例③－3年社会科

公民の経済分野では高校の政治経済分野を意識したかなり専門的な内容まで「アドバンス」という名称で取り組んでいるが、その中で銀行の働きや金融政策などに関し、プロジェクタに模式図を映すことにより、生徒各自がその内容を説明できるように取り組んだ。

◎実践例④－2年理科

理科では学年を問わず実験結果を集約して表すときにICTを活用しているが、2年生では酸化銅の実験において、結果を集約してエクセルでグラフ化したものをプロジェクタで映し、それを基に考察して生徒がまとめや発表を行った。

◎実践例⑤－3年理科

実際の夜間野外観察が難しい天体分野においてICTを活用しているが、例えば金星の見え方について、実物投影機に天体のモデルを映し、それをプロジェクタにつないでどのよう見えるかを観察した。このようにして見えた見え方を基に生徒が発表を行った。

◎実践例⑥ー技術科

各学年ともパワーポイント作成とそれに基づくプレゼンテーションに取り組んだ。1年生では助成金で購入したデジカメを使い学校の様々な場所を紹介するパワーポイントをまとめて発表した。また、旅行プランを作成してそれをプレゼンすることも行った。2年生では技術の栽培活動とリンクさせ野菜栽培の記録を撮影して発表した。3年生では地球環境に目を向け、自分たちがよりよく生きるための循環型社会構築に向けた各自の提言をまとめて発表した。

◎実践例⑦ー英語科

英語科では電子情報ボードにデジタル教科書を取り入れ、日常的にICTを活用した授業に取り組んでいる。生徒も電子情報ボードを見ながら単なる英文を読むような表現活用のみならず、自分で自分のことを英語表現するような活動にも積極的に取り組んでいる。

◎実践例⑧ー道徳

副読本にある教材でビデオ化されているものをプロジェクトで視聴した。副読本で読むよりも映像や音響が効果的で、身近な事として生徒が考えやすく、授業の後半は話し合いによる言語活動をより深めることができた。

(2) 自己のキャリアをイメージしていくための実践と取り組み

①進路相談室での活動と活用

本校ではキャリア活動における生徒の学びをポートフォリオ的に蓄積し生徒が自由に入って将来を考える場として進路相談室を整備してきた。そこには生徒作品の他、さまざまな将来を考える書籍類も整備してきたが、今年度はさらに生徒自身が自らのキャリアを発信する場としても活用を行った。

2年生の職場体験の後には、それをまとめたレポートの発表を実施。3年生がキャリア論文を完成させた後には、論文の発表も行った。これらの発表は学級や学年でも実施してきたものであるが、学年をオープンにし昼休みを利用して発表を行うことで、特にそれぞれの下級生が数多く視聴に来室し、自分たちの今後の活動を意識し、6年間の学びの連続性を意識する機会となった。

②キャリア講演会

本校では年に全学年を通した講演を2回、学年ごとの講演を1回ずつ実施している。これは、様々な専門の道の方から直接お話を聞くことにより、生徒自身に自分の生き方・在り方を考えてもらおうというのが大きな主旨である。今年度は以下のような講演会を行った。

7月(3年) 卒業生と語る会を実施した。高校1年と大学1年の先輩を招き、中学と高校の生活の違い、高校3年間の心構えや学習のあり方、将来への考え方を聞き、自分のキャリア設計について考察する機会とした。

10月(2年) 地元放送局の女性アナウンサーを招いて「話し方」や「マナー」の話を聞くことを通し、2年生の職場体験を前に「働く」ということがどういうことなのかを意識出来るようにした。

11月(全体) 高校と共同で講演会を行った。今年は東京外国語大学学長の亀山郁夫先生をお招きし「21世紀を切り拓く言葉」という演題でお話ししていただいた。ロシア文学や東日本大震災で感じられたことなどを通し、これからの生き方に指針を与える講演であった。

11月(1年) 留学生と語る会を実施した。1年生が総合的な学習の時間に作成した「身近な和」の発表

を留学生の前で行い、それを基に交流した。

2月(全体) 東北大学の河村和徳先生をお招きし、「東日本大震災から仕事を考えてみる」という演題で話をいただいた。震災以降、東北の若者たちの仕事に対する意識がどのように変化したの学び、生徒たち自身も自分の将来の目標を考える一助となった。

③職場体験活動(わく・ワーク体験活動)

今年も2年生で職場体験を行った。本校は例年、事前学習を念入りに行っており、県の「ジョブカフェ」を訪れて適性検査を行ったり、前述の「話し方」「マナー」講演を聞いて意識を高めてきて行った。また、事後には職場体験の様子を単にまとめるだけでなく、仕事の内容と学んだことをパワーポイントにまとめ、互いに報告し合い、他学年にも還流した。

(3)キャリア論文を作成していくための活動

①自分の将来の夢や目標を具体的にイメージする。

今年是自己のキャリアをデザインしていく上での調べ活動を行うため、3年生には4月当初に自己の目標を具体的に記述させた。中にはハッキリと表明できない生徒もいたが、夢や目標は縛られるものではなくいつ変わってもいいのだから、何かに向かって努力して取り組むことが大切であると認識させ取り組んだ。

②大学調べの実施

まず、自分の目標に合った大学を調査してみた。大学の特色から自分の行きたい学部・学科の特色まで調べ、自分の将来の目標に照らし合わせてみた。そして、それをパワーポイント8枚分にまとめ、前期の発表活動として行った。

③卒業論文の作成

本校では高校入試がない分、3年生が高校にステップアップしていく節目の活動として従来より卒業論文の作成を行ってきた。わずかA4用紙2枚程度のものではあるが、今年是自己の将来の目標や夢に関連したテーマを考え、自分で調べ学習を行った。

④キャリア論文の形式まとめる。

以上の取り組みをパワーポイントにまとめた。卒論をダイジェストにまとめ、そこに将来の目標、大学調べの結果、これからの決意などをまとめ、合計15枚のパワーポイントにまとめた。

(4)キャリア論文を発表する活動

①クラスでの全員発表

2月初旬、3年生の各クラスを半分ずつに分け、総合的な学習の時間を活用して計4時間をかけて全員の発表を行った。発表の様子そのものは個人差が見られたが、一人一人の将来の目標や夢、そしてそこに向けて1年間調べてきたことを聞くことができた。短時間ではあったが、各自が見事にパワーポイントのスライドに記したキーワードを中心に、自分の将来をプレゼンテーションする姿が見てとれた。



②クラス代表2名×3クラスの6名による学年発表

2月下旬、今回は3年生全員が視聴覚教室に集まって学年発表の機会を設けた。この機会には高校の校長・副校長・教頭先生方をはじめ、何名かの先生方も参観に来ていただいた。発表の際には質疑応答の時間も設け、同じような目標を持つ仲間からの質問が多数出された。

③学習成果発表会での全校(下級生)に向けた発表

3月初旬、市内のホールを貸し切って1年間の様々な学習成果を報告し合う会を行った。その中で3年生のキャリア論文も紹介された。残念ながら時間の都合で1点のみの報告であったが、特に下級生に向けて3年生はこうした将来の目標を全員が定めて高校へ進学していくという大きなアピールとすることが出来た。

5. 研究の成果と課題

まず、最大の成果は今年もしっかりと3年生全員が将来についての夢をしっかりと語ったという点である。とかく、中学生年代の子供たちにとって自分の将来について目標を語るというのは照れくさく、また、将来に関して特にこれといったビジョンも持たず何となく言われるがまま日々の学習をこなすようなことも多いのも事実である。そのような中で本校の3年生は全員が自分の将来を意識し、それに向けた様々な調査を行い、それを級友の前で語る活動を続けている。それは、当初の研究の目的であった自己実現に向けた推進力を得られるきっかけになっていると思われる、また、高校とのスムーズな連携をもたらしていると考えている。

一方、今年は教科指導にもICT活用による言語活用力を向上を取り入れ、キャリア教育に生かせるような研究に取り組んだ。各教科でなかなか表立った活動はないのかと危惧した面もあったが、集約してみると多くの教科でICTを活用しながら生徒の言語活動を向上させる取り組みが実践されていた。また、教科指導を通じたICTの活用と生徒自身によるプレゼンテーション活動の機会は、生徒自身の思考力・判断力・表現力の育成のみならず、学び方、問題解決能力の育成につながり、確かな学力を育むことにつながっており、教科特有の概念や考え方は人としての度量の広さ、奥深さを築かせることにつながった。

反面、2年間の活動を通して課題が残らなかったわけではない。本校ではICTをキャリア教育に活用し生徒のプレゼンテーション能力向上につなげてきたが、それらを蓄積しデータベース化するようなこと、さらにその成果を発信するようなどころまではなかなか手が回らなかった。キャリア論文はCD-ROMに残し、生徒の授業の様子は公開研究授業などでも公開しているが、なかなか「キャリア教育」のパッケージとしてまとめることは出来なかった。今後、この2年間の助成で蓄積されたICT機器を活用するのはもちろん、本校ならではの「キャリア教育のあり方」を残していくことも必要だろうと考える。



6. おわりに

今回の取り組みを進めるにあたり、本校では各クラスでプレゼンテーション活動が出来るように貴財団の助成金を活用させていただき、この2年間で不足していたプロジェクターやデジタルカメラ・ビデオカメラ、BDプレーヤーや大型スクリーンなど多くの備品を購入することが出来た。そして、それが先生方の授業実践と生徒の素晴らしい発表につなげることが出来たと感じている。改めてこの紙面をお借りしてお礼を述べたい。